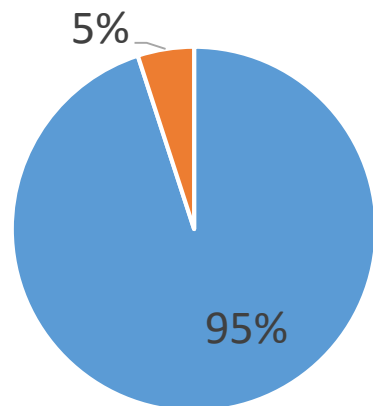


板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《学校回答用》 まとめ

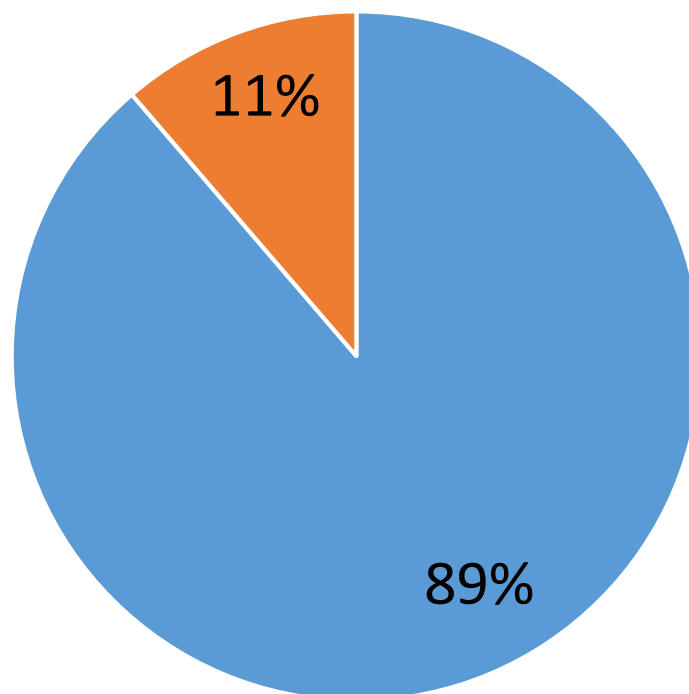
令和5年度

Q1 会議の開催数(年5回)は適当だと思いますか。

令和4年度



令和5年度



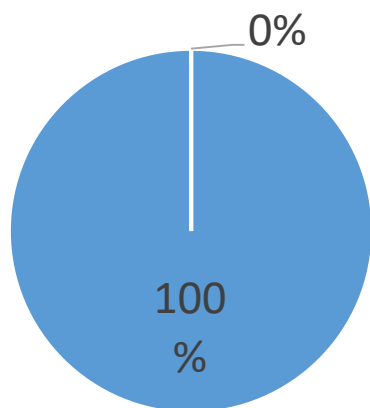
■ 適当 ■ 適当でない

会議の開催数が適当だと回答した学校は約89%であった。

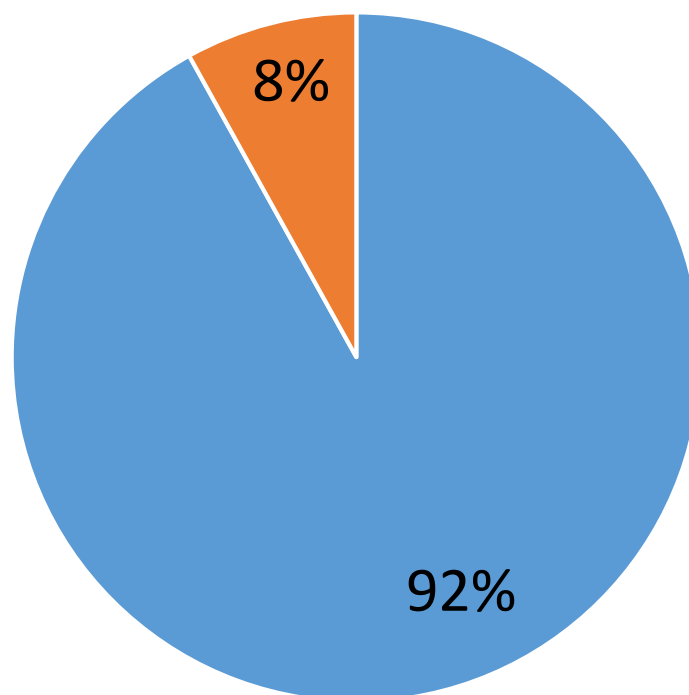
適当でないとする回答の中には、6回以上開催する必要があるとの意見もみられた。

Q2 委員の人数(地域委員10人以内)は適当だと思いますか。

令和4年度



令和5年度



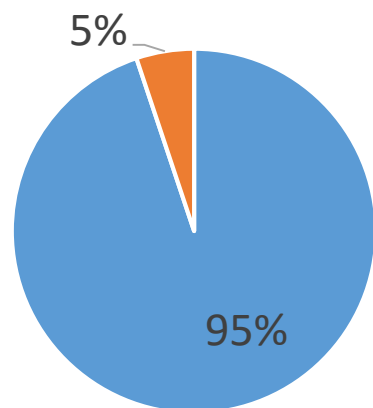
■ 適当 ■ 適当でない

委員の人数は適当であると回答した学校は約92%であった。

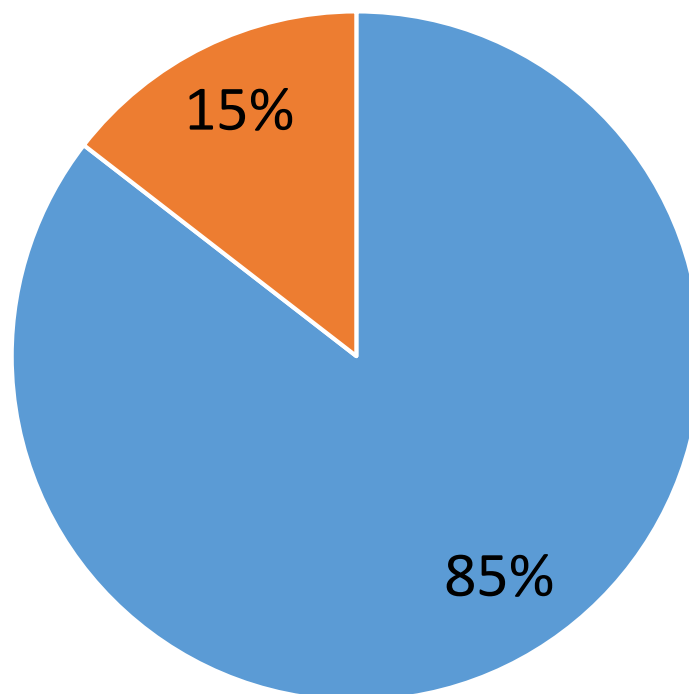
適当でないとする回答の中には、10人以上とする必要があるとの意見もみられた。

Q3 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和4年度



令和5年度



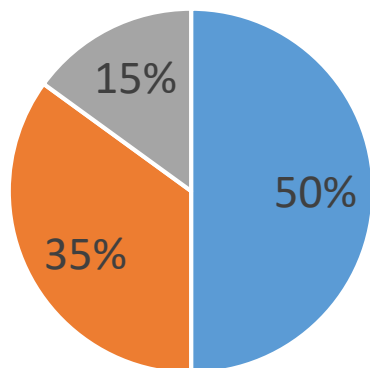
■ 思う ■ 思わない

約85%の学校が熟議のテーマ設定が適切であったと回答した。

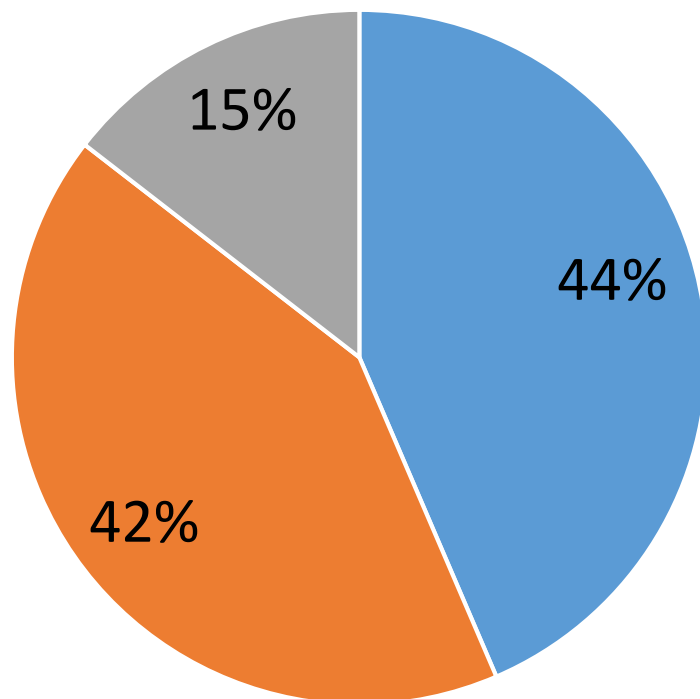
思わないと回答した中には、熟議のテーマ設定の困難さを感じる学校もあった。

Q4 熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていますか。

令和4年度



令和5年度



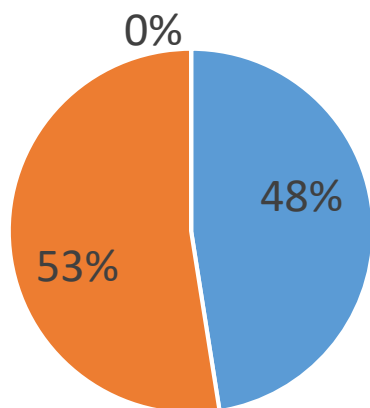
■ 毎回している ■ 1回はしている ■ していない

約86%の学校で、熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていると回答した。

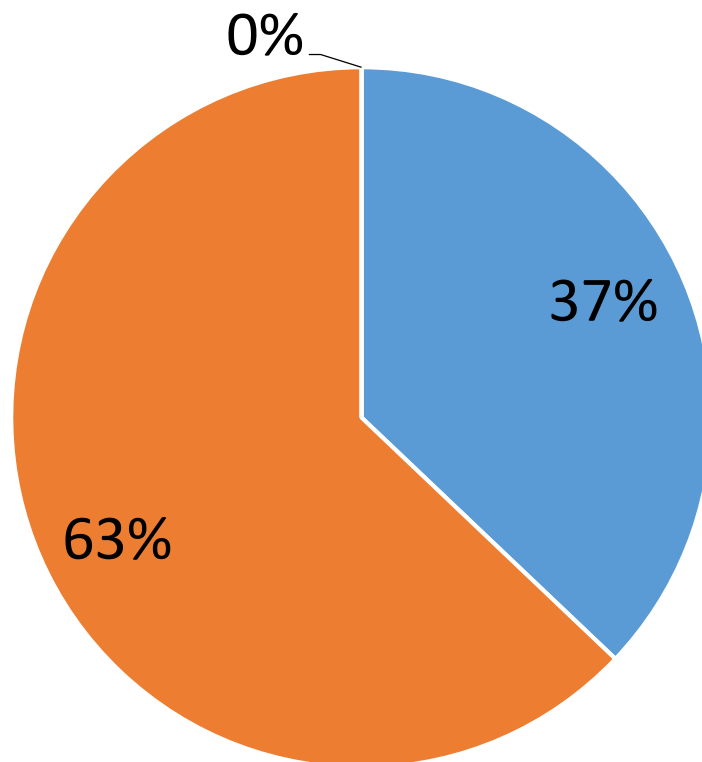
熟議テーマについては、学校だけで決めるのではなく、委員長をはじめとする委員と話し合っ決めて決めることが望まれる。

Q5 学校の課題や悩みについて、委員と共有できていると思いますか。

令和4年度



令和5年度

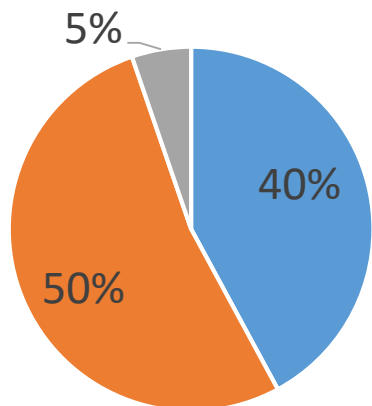


■ 全て共有できている ■ 一部共有できている ■ 共有できていない

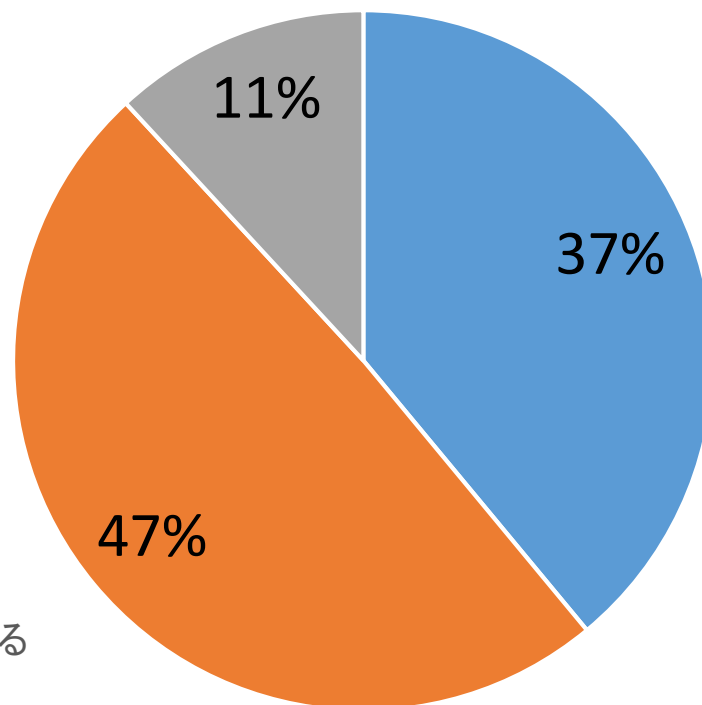
昨年度と同じく、全ての学校において、委員と課題や悩みを共有できていると回答した。

Q5-2 (すべて共有できている・一部共有できていると回答した学校) 学校の課題や悩みに対して、委員から解決策等が出てきますか。

令和4年度



令和5年度

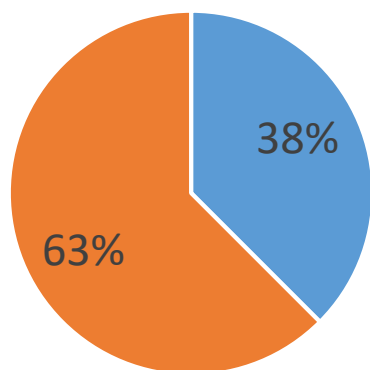


- 具体的解決策まで出る
- 意見は出るが解決までには至らない
- あまり意見は出てこない

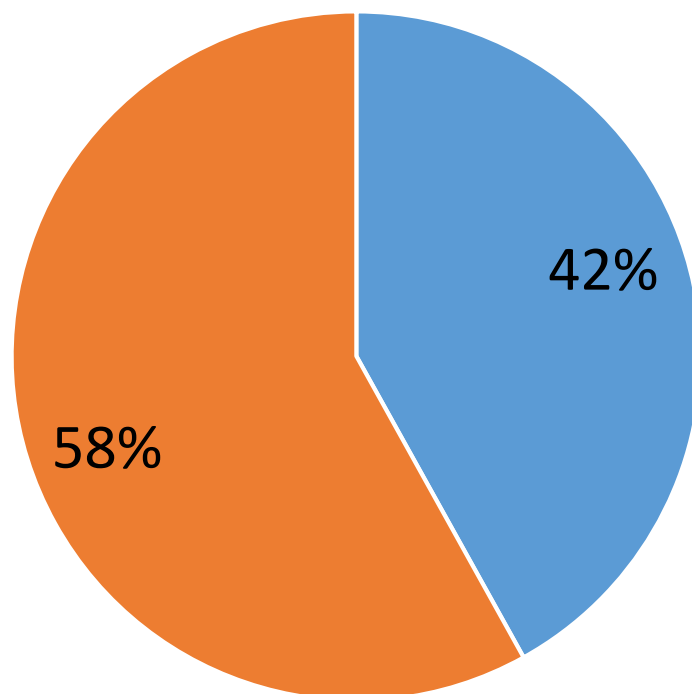
問5で課題や悩みを共有できていると答えた学校のうち、具体的解決策まで出る学校が40%から37%とわずかに減った。具体的な解決策までに至らない学校がまだ多くみられる。

Q6 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。

令和4年度



令和5年度

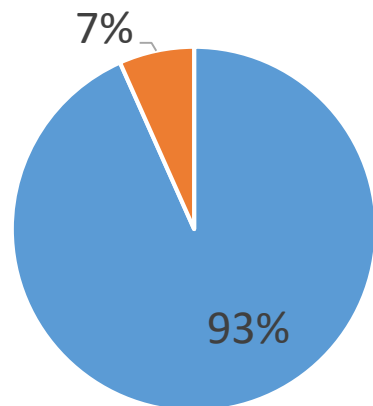


■ ある ■ ない

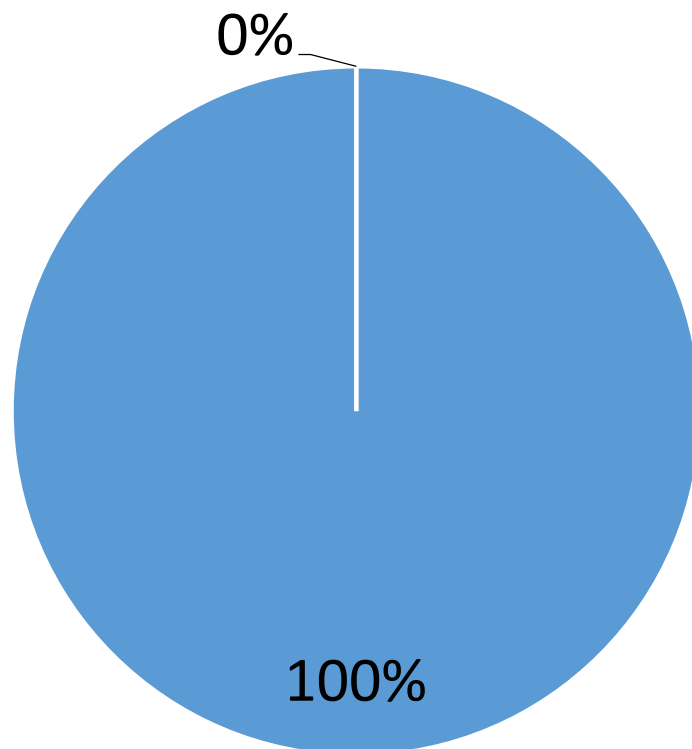
CS委員会の重要な機能の1つである基本的な方針の承認について、委員から意見があったとする学校は約42%であった。

Q6-2 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。 (あると回答した学校)出された意見を当該方針に反映させましたか。

令和4年度



令和5年度



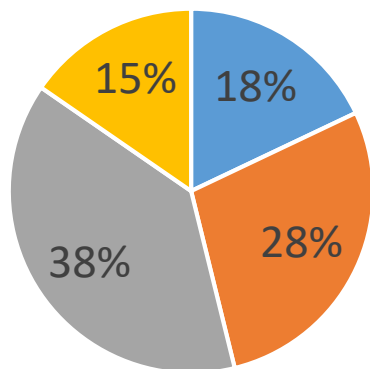
■ 反映させた ■ 反映できなかった

意見を反映させた学校は、100%だった。

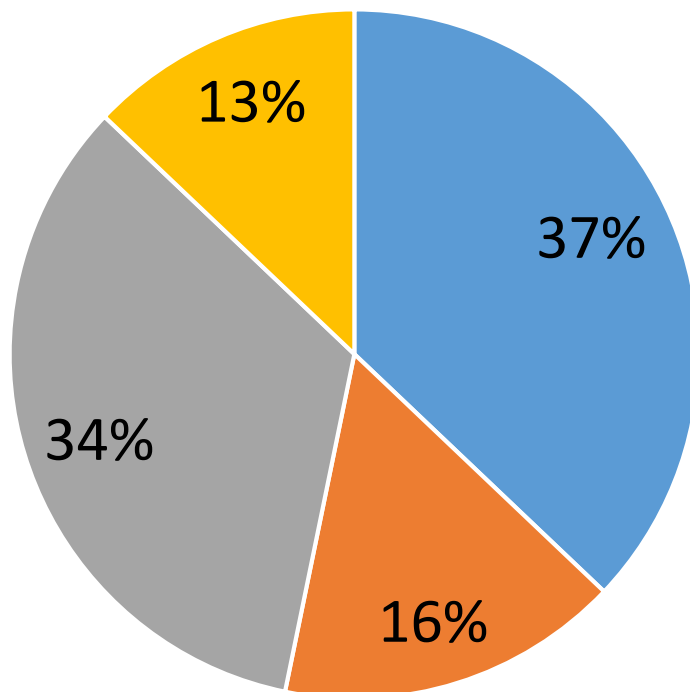
学校経営方針の説明の際には、なるべく専門用語を用いず、平易な言葉で説明する等、委員が理解でき意見が言いやすい環境を整えることが求められる。

Q7 熟議を実施する際、積極的な発言や意見をまとめるなど、実質的に熟議の進行を担っている方を選択してください。

令和4年度



令和5年度



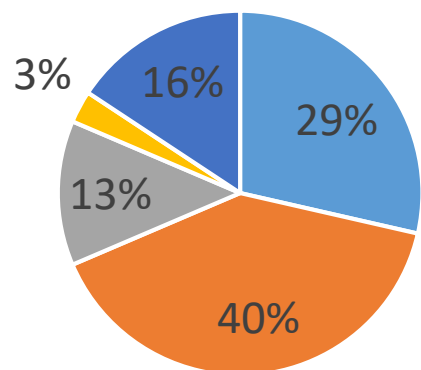
■ 委員長 ■ 校長 ■ 副校長 ■ その他 (地域コーディネーターなど)

熟議の進行を委員長等の地域人材が担っている学校は、約37%と大幅に増加した。

学校がメインで進行する学校がまだあるが、地域委員が進行を行う学校が増えてきている。

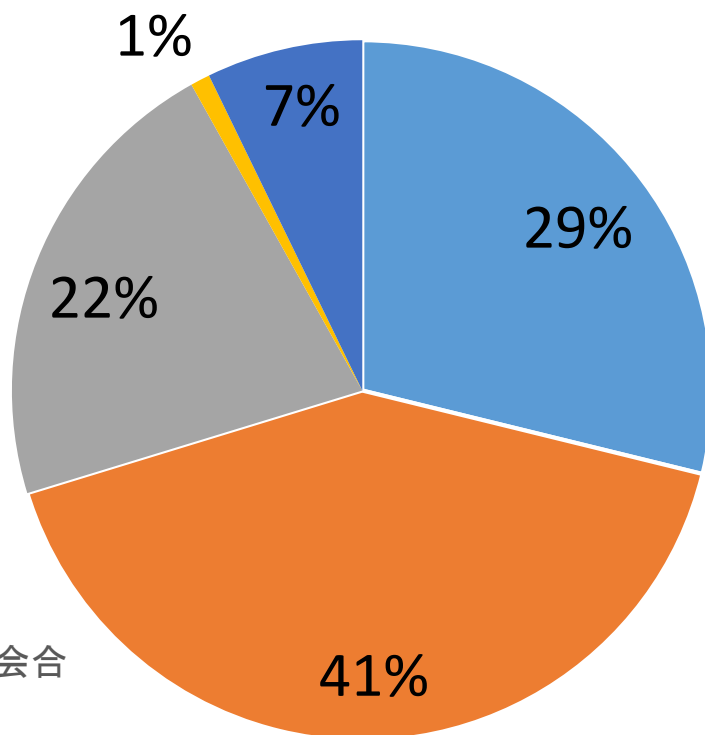
Q8 CS委員や地域コーディネーター、iCS活動についての紹介や周知方法に関して、当てはまる項目を全て選択してください。

令和4年度



- iCSだより
- 学校だより
- 保護者会や地域の会合
- 周知していない
- その他

令和5年度

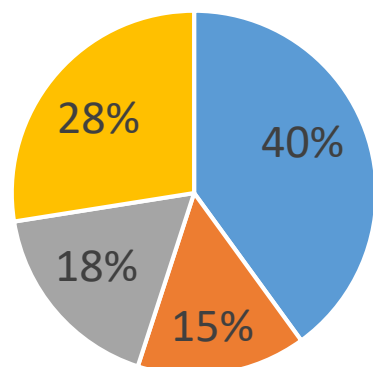


iCSの活動の紹介や周知について、学校だよりで行っている学校が最も多かった。その他の回答として学校のホームページに掲載しているという学校も多くあった。

保護者や地域の方にiCSを浸透させるためにも、今後も継続して行うことが望まれる。

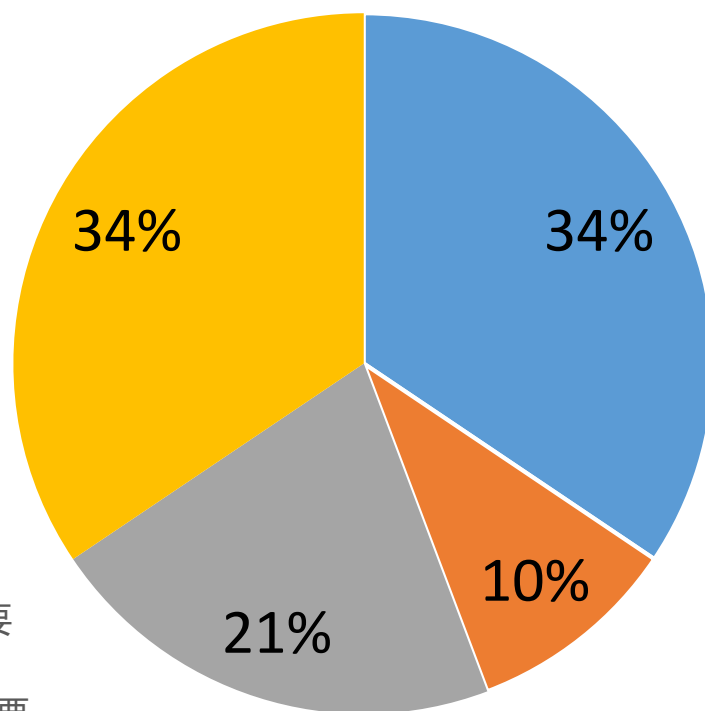
Q9 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

令和4年度



- 両方必要
- 書面開催は必要
- WEB開催は必要
- どちらも必要ではない

令和5年度

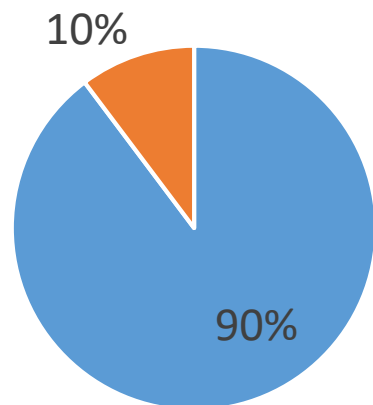


書面開催及びWEB開催が必要だと思う学校は、約66%であった。

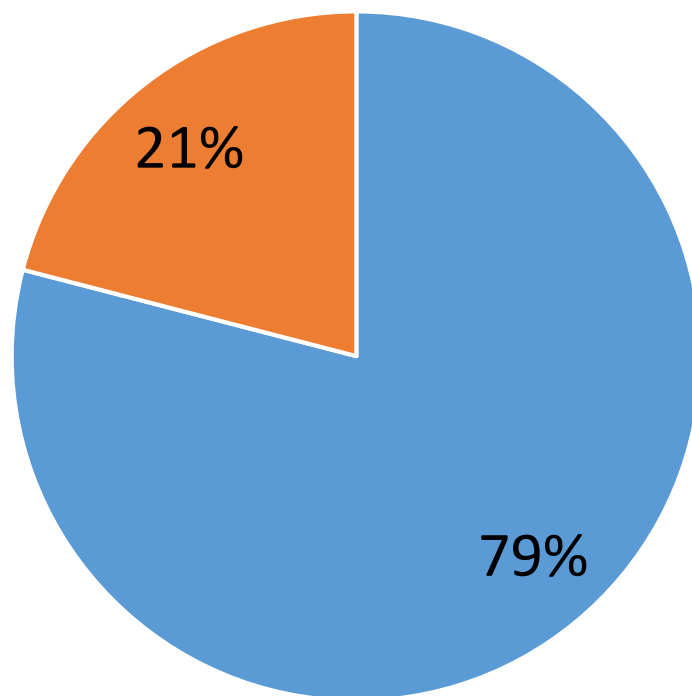
感染症等の対策のためには必要ではあるが、より深い熟議を行うためには、顔を合わせて会議を行うことが理想であるとの意見もみられた。

Q10 委員に会議以外(運動会等の行事・卒業式等の式典など)で委員として参加している、もしくは参加してもらいたい行事はありますか。

令和4年度



令和5年度



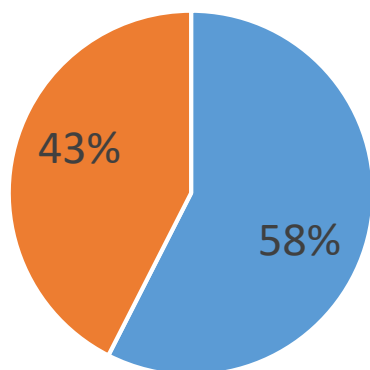
■ ある ■ ない

約79%の学校が、委員に参加してもらいたい行事があると回答した。特に、卒業式や入学式等の式典、運動会や音楽会等の行事が多くみられた。

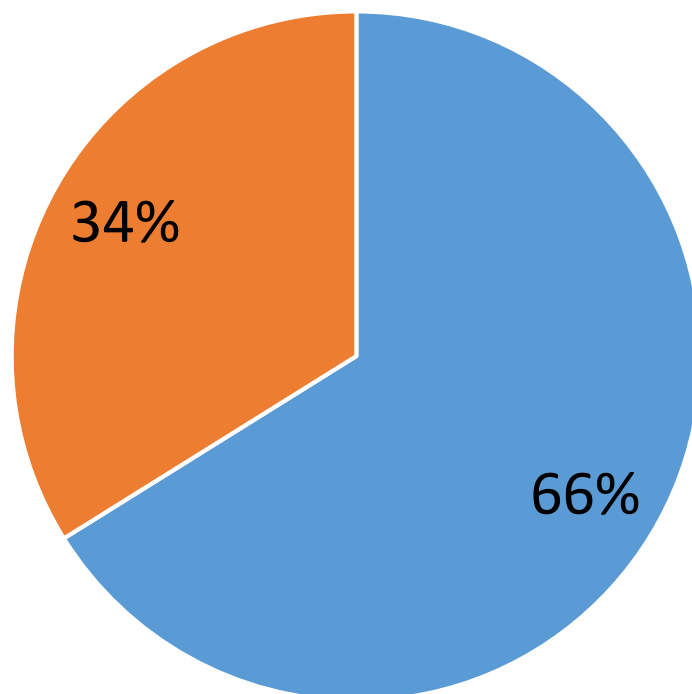
委員として日常的に学校に来てほしいという意見もあった。

Q11 委員の人選について、課題と感じていることはありますか。

令和4年度



令和5年度



■ ある ■ ない

委員の人選に課題を感じている学校は約66%であった。

【主な意見】

- 人材情報が少ない、委員の変更が難しい。
- 新しい人材や学識経験者等を発掘していくことが難しい。
- 委員の高齢化

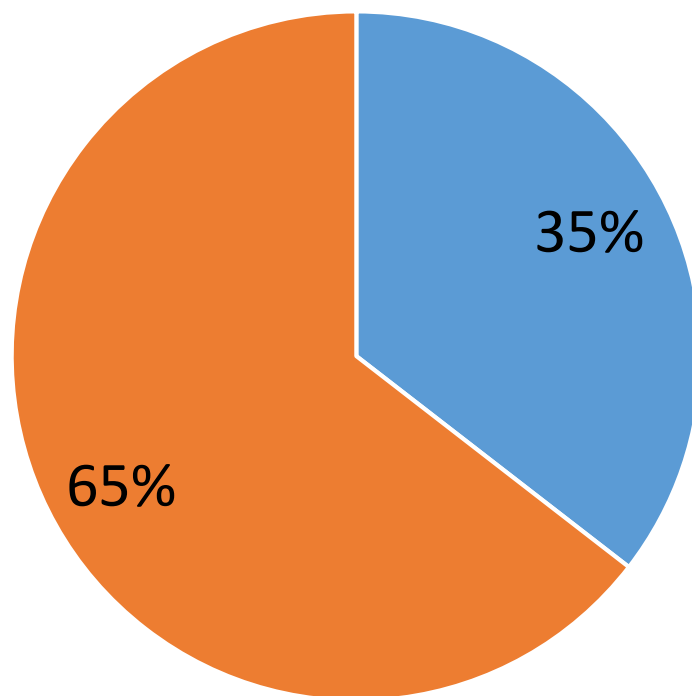
など

Q12 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和4年度

設問なし

令和5年度



■ 思う ■ 思わない

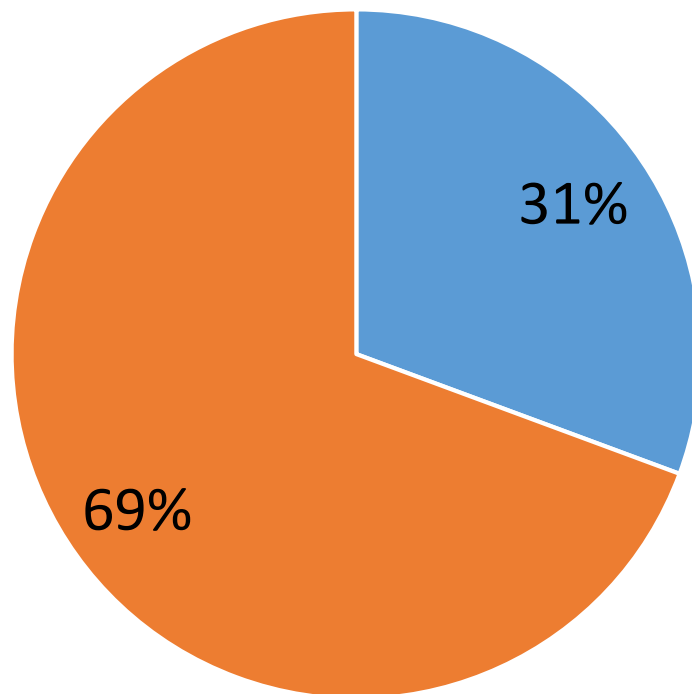
約35%の学校が、委員の任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。
2年～5年程度の回答が多く寄せられた。

Q13 委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和4年度

令和5年度

設問なし



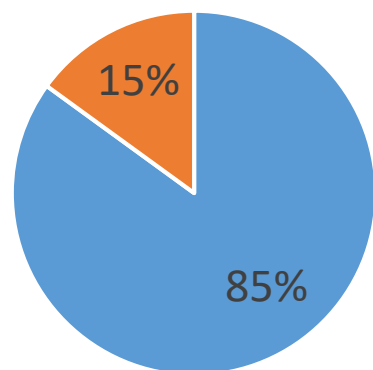
■ 思う ■ 思わない

約31%の学校が、委員長の任期について定めた方がいいと回答した。

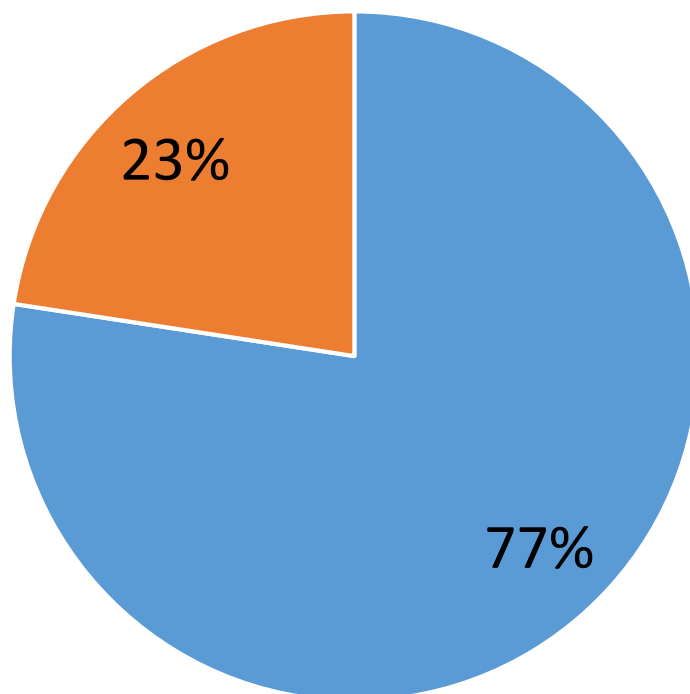
委員の任期と同じく、2年～5年程度との回答が多く寄せられた。

Q14 現在委嘱されている地域コーディネーターの人数は足りていると思いますか。

令和4年度



令和5年度



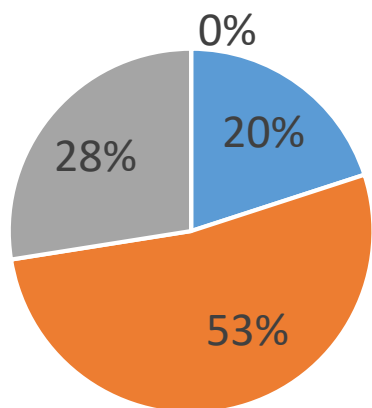
■ 思う ■ 思わない

地域コーディネーターの人数が足りているとする学校は約77%であった。

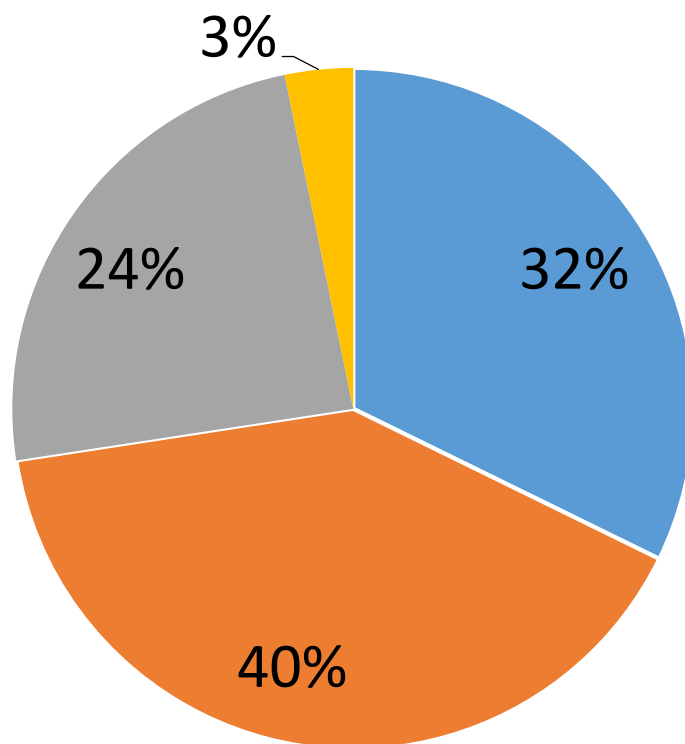
現在の地域コーディネーターの不足だけでなく、後継者不足等の課題を抱えている学校も多い。

Q15 貴校の学校支援地域本部の活動は活発だと思いますか。

令和4年度



令和5年度



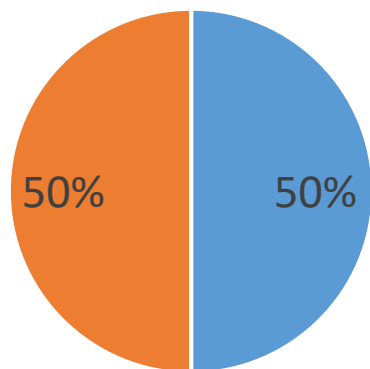
- とても活発
- どちらかといえば活発
- どちらかといえば活発ではない
- 活発ではない

「とても活発である」、
「どちらかといえば活発である」と回答した学校は、
約72%であった。

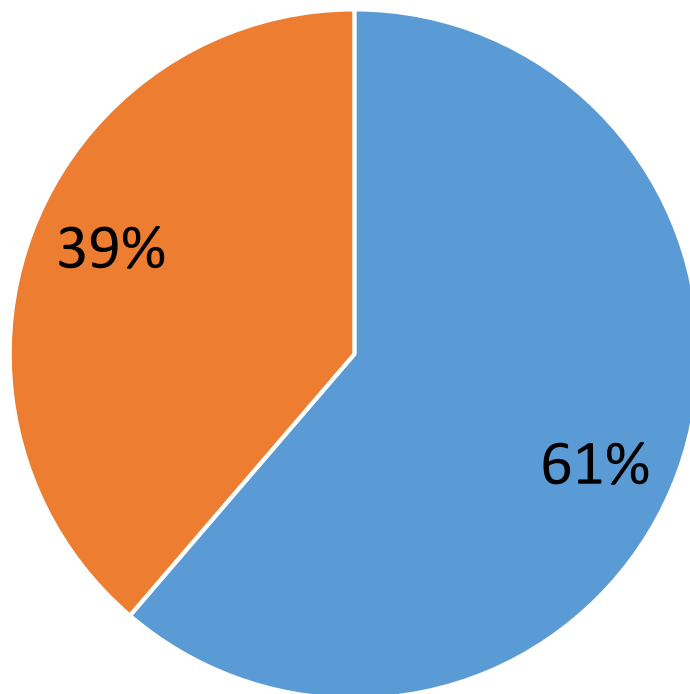
「活発ではない」と回答する学校もあり、より活発に活動することを望む学校があると推測される。

Q16 学校支援地域本部事業について、課題と感じていることはありますか。

令和4年度



令和5年度



■ ある ■ ない

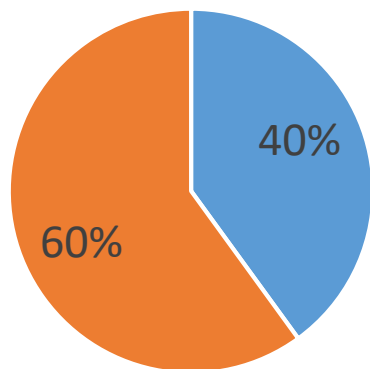
学校支援地域本部事業について、課題があるとする学校は約61%であった。

【主な意見】

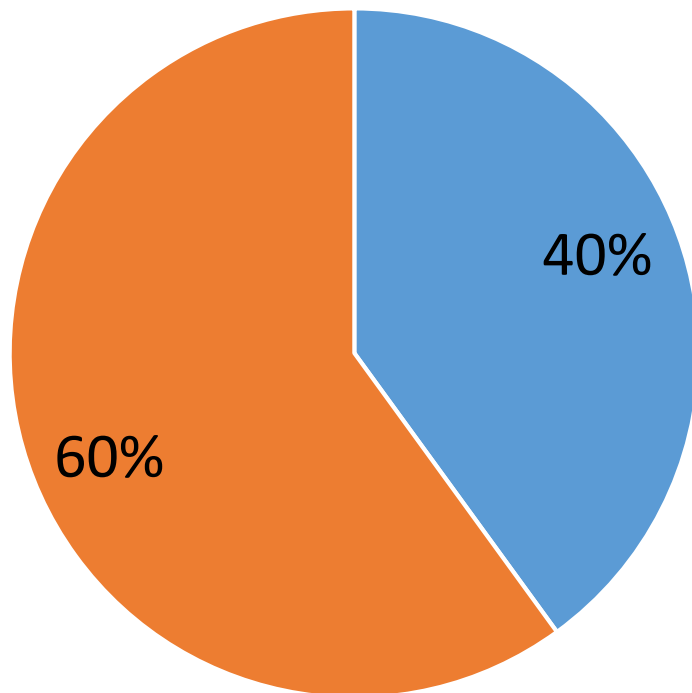
- 地域人材の発掘、活用
- ボランティアの固定化
- ボランティアへの周知方法
- 活動のための予算が少ないなど

Q17 学校支援地域本部を通さず、直接ボランティアとつながって支援活動を行っている例はありますか。

令和4年度



令和5年度



■ ある ■ ない

直接ボランティアとつながっている学校は、約40%であった。

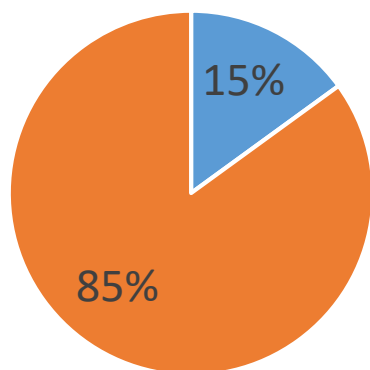
学校支援地域本部が実施される前からの繋がりが継続していると推測される。

【主な取組】

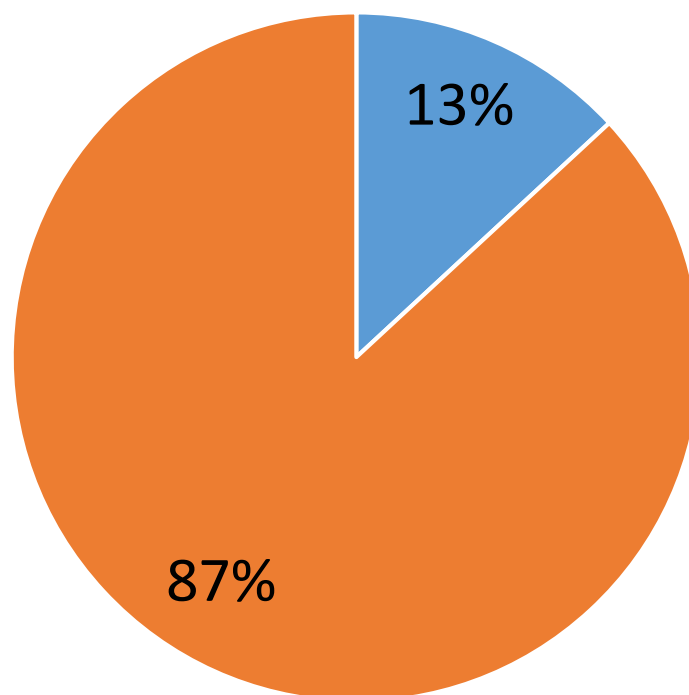
- 学習支援ボランティア
- 放課後学習教室ボランティア
- 読み聞かせボランティア
- 学生ボランティア など

Q18 統括コーディネーターに相談したいことはありますか。

令和4年度



令和5年度



■ ある ■ ない

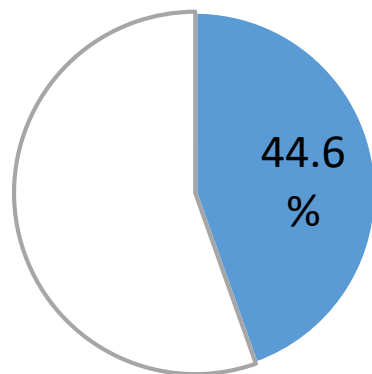
統括コーディネーターに相談したいとする学校は約13%であった。

【主な相談内容】

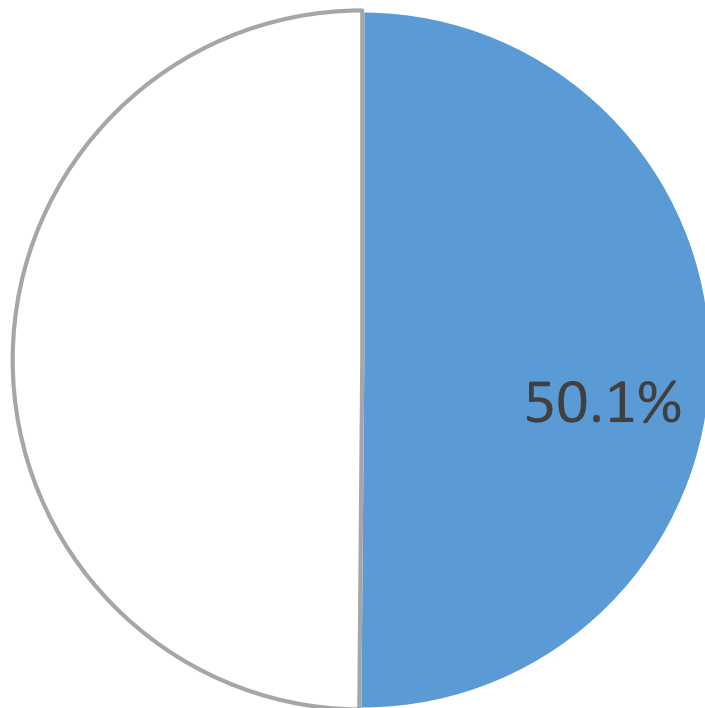
- 地域主体のiCS運営とするには
- 継続的なボランティアの集め方 など

Q19 地域の力を活用することで、自身の業務量・負担が減ったと感じている教員はどのくらいいますか。

令和4年度



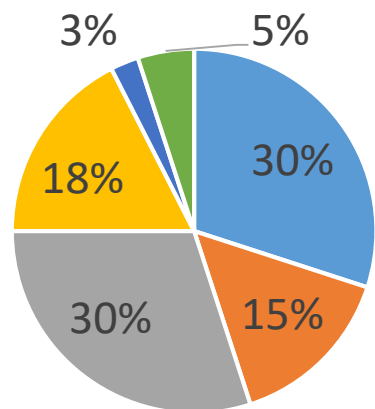
令和5年度



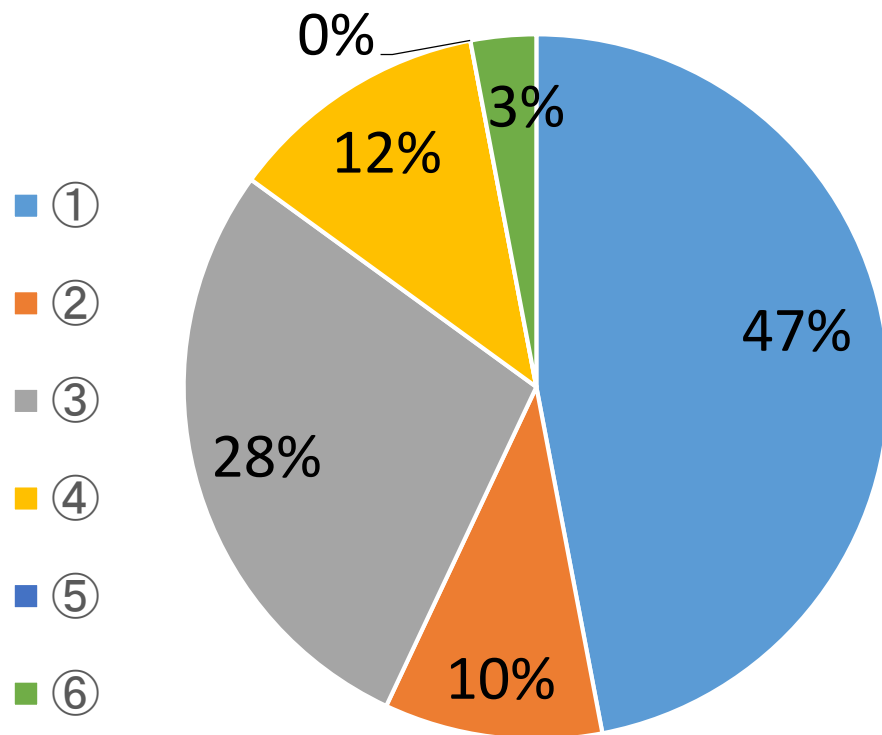
地域の力を活用することで業務量等が減ったと感じている教員は約50.1%であった。昨年度から、5%ほど増加した。

Q20 「地域とともにある学校」を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和4年度



令和5年度



①を必要とする学校が約47%、③を必要とする学校が約28%であった。

学校と地域が連携し、目標・ビジョンを共有することについて学校側の意識改革を重視する学校が増えた。

- ①地域との連携・協働が不可欠だとする学校・教職員の意識
- ②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
- ③地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④地域人材の学校経営への参画
- ⑤地域への学校施設の開放
- ⑥その他

Q21 iCSに関して、教育委員会に対する要望、又は悩みや課題等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意見	回答
教育委員会事務局職員にも各校のiCSを訪問し、委員の役割を周知してほしい。	積極的に各CS委員会に赴き、現状を把握し、必要に応じてiCSについて説明するように努める。 また、委員向け研修等を行い、iCSや学校運営についての理解を促進する。 その上で、適切な情報等がいきわたるような仕組みを構築する。
地域主体の委員会となるよう、委員長等が参加できる研修会を実施してほしい。	
教職員が参加する熟議を行いたいが、勤務時間の関連で、全員が集まる時間を設定するのが難しい。	教職員との熟議については、年1回は実施していただくことが望ましいが、各学校の事情に応じて検討していただきたい。
CS委員会での活動できる予算がほしい。予算が組まれば、より活性化すると思う。	CS委員会は、iCSにおける経営部門のため、予算執行を行っておらず、実働部門である学校支援地域本部に対し、消耗品等の予算措置を行っている。 iCSをより一層推進するため、運用方法等について研究する。